

シルバーフェリー



## ① フェリーふとうができるまでに、くろうしたことは何か

今のフェリーふとうは、昭和57年4月から使用しています。

それまでは、同じ河原木地区のこうきょうがんぺきを使用していましたが、駐車場はほそも無く、せつびの良い物ではありませんでした。雨や雪が降るとすぐぬかるみができ、車が船に乗る前によごれてしまいました。今はきちんとほそうされています。

## ② フェリーができるまで、北海道までどうやって行ったか

八戸から苫小牧までのフェリーが最初に就航（しゅうこう）したのは、昭和48年4月25日からでした。それより前は青森・のへじから函館までのフェリーや、当時の国鉄（今のJR）が運航していた、青函連絡船（せいかんれんらくせん）で北海道に行っていました。

## ③ フェリーふとうはなぜできたか

駅や空港は専用のせつびがありましたが、昔はフェリーには専用せつびがあまりありませんでした。昭和40年ころから自動車で旅行する人が増え、フェリーもたくさんできました。たくさんの人をむかえるためには、専用せつびが必要となり、各地につくられました。

## ④ フェリーの大変な仕事は何か

台風や低気圧がきたときは、天気よほうなどを参考にして、運航するかどうかを決めますが、天候を考えてはんだんをしなければなりません。また、たくさんのお客様が乗られますので、船の中で病気になったりケガをしたりする人もいます。船員さんたちは、ひごろくんれんをしているため、おちついてしょちします。シルバーキーンとフェリーはちのへは、おそらく日本で最初にAEDをとうさいしたフェリーです。

## ⑤ フェリーふとうを考えた人はだれか

くわしくはわかりませんが、空港やがんぺきなどは、国土交通省（こくどうこうつうしやう）というところのお役人さんたちが、いろいろな知恵をだして考えています。

## ⑥ フェリーふとうができて、何かいいことはあったか

一番助かっているのは船に乗るお客様です。フェリーふとうにはトイレやレストランなどがあり、長い時間をかけて走っているトラックの運転手さんたちの中には、出航時間に間に合わせるために、トイレにも行かずごはんも食べないで運転してきます。フェリー埠頭にはさまざまなしせつがあるので、便利です。

## ⑦ フェリーふとうで何の仕事をしているのか。またどんな会社があるのか

フェリー会社	:	船に乗る人たちのよやく受付、乗船券の発売
作業会社	:	船をがんぺきに着けたりはなしたりする作業をする会社
貨物会社	:	船から荷物を積んだ車をおろす作業をする会社
小売店	:	おみやげやジュースなどを売っている会社
ねんりょう会社	:	船にねんりょうをほきゆうする会社
フェリーふとう公社	:	がんぺきやターミナルをかんりする公社

⑧ どうして八戸にフェリーふとうができたか

北海道は約565万人の人口がありますが、その約60パーセントの約340万人は札幌（さっぽろ）きんぺんに住んでいます。その人たちは函館より苫小牧に船が着いたほうが近くて便利なので八戸～苫小牧にフェリーを就航（しゅうこう）させ、フェリーふとうも造りました。

皆さんのせんぱいたちの質問内容（平成16年10月5日・平成17年9月6日実施）

○ なぜフェリー埠頭は海の門なのか。

皆さんの家にも玄関があるように、フェリー埠頭は北海道からのお客様をお迎えするため、また、北海道に出発されるための玄関です。  
青森県には八戸市の他に、青森市・大間町にもフェリー埠頭があります。

○ フェリーの中には部屋は何部屋あるのか。

シルバーキーン 特等5室 1等22室 2等寝台2室 2等5室 運転手室 56室(80ベット)  
フェリーはちのへ 特等6室 1等19室 2等寝台2室 2等5室 運転手室 2室(76ベット)

○ フェリーはいつできたのか。

シルバーキーン 平成10年3月 （三代目・初代船は昭和48年 4月）  
フェリーはちのへ 平成元年7月 （二代目・初代船は昭和54年11月）

○ フェリー埠頭はいつできたのか。

昭和57年4月より使用しています。

○ どこから一番人がくるのか。

北海道札幌地区（道央地区）  
北海道は人口565万人のうち、道央地区には約60パーセントの人が暮らしています。

○ 北海道までどのくらいの距離があるのか。時間はどのくらいかかるのか。

八戸～苫小牧間 約242キロメートル（約131マイル 1マイルは1,852メートル）

フェリーはちのへ 八戸発 9時間 苫小牧発 9時間30分

○ フェリーは何種類あるのか。

八戸～苫小牧航路

川崎近海汽船	船名：シルバーキーン	7,005トン	平成10年山口県下関で建造
	船名：フェリーはちのへ	5,605トン	平成元年広島県瀬戸田町で建造
東日本フェリー	船名：べにりあ	6,558トン	平成11年山口県下関で建造
	船名：べが	6,698トン	平成2年山口県下関で建造

○ フェリーはどこにエンジンがついているのか。

車を積載する甲板の下側で、船の真中にあります。

○ 1部屋何畳あるのか。

特等室（定員2名）	シルバーキーン	約10畳	フェリーはちのへ	約10畳
1等室（定員4名）	シルバーキーン	約6畳	フェリーはちのへ	約6畳

○ フェリー埠頭の前は何かだったか。

太平洋の海でした。

○ 車は何台入るのか。

シルバーキーン	トラック 9m車	92台	乗用車	20台	総延長	894m
フェリーはちのへ	トラック 9m車	57台	乗用車	93台	総延長	820m

○ フェリー埠頭を建てる場所をどうやって決めたのか。

昭和48年に八戸～苫小牧にフェリーが就航した当時は、三菱製紙さんのほうにある八太郎A岸壁という公共埠頭を利用していましたが、駐車場等が狭く、また船も大型化してきたため現在の場所に移りました。

従来から利用いただいているお客様に迷惑をかけないように、なるべく近くの場所に移ろうということで、現在の場所に決まりました。

当初は船を二隻つけられる岸壁を造る予定でしたが、フェリー埠頭の向かいに飼料コンビナートが造られることになり、多少計画は変更となりました。

○ 1日にどれ位の人が乗るのか。

シルバーキーン	定員600名	北上便	100名	南下便	186名	（平成17年4～8月平均）
フェリーはちのへ	定員520名	北上便	83名	南下便	166名	（平成17年4～8月平均）

○ 船で一番大切なところはどこか。

操舵室（ブリッジ）・機関室（エンジンルーム）・客室・車輛甲板

○ 時速何キロで走るのか。

シルバーキーン	航海速力	20.75ノット	時速約	38.4km	（最大23.25ノット 約43.1km）
フェリーはちのへ	航海速力	18.20ノット	時速約	33.7km	（最大21.47ノット 約39.8km）

○ フェリーで働く人は、お客さんにどのような工夫（サービス）をしているのか。

ご乗船いただいたお客様が、安全に目的地まで到着できるよう、乗組員一同、つねに安全第一を心がけています。また、エレベーターが設置されていない船の場合、専用の担架で運ぶなどの作業もしています。

乗船前でも、地上係員はフェリー埠頭迄の道案内をしたり、運賃をお安く提供できるよう心がけています。また、インターネットでも予約や空席照会ができるよう、日夜努力しています。

○ 何人位で仕事をしているのか。

シルバーキーン	乗組員通常	20名
フェリーはちのへ	乗組員通常	22名

